

北京国際工程機械展覧会 および技術交流会 視察団報告

渡部博信

北京国際工程機械展覧会見学

第8回北京国際工程機械展覧会は、2005年10月19日～22日の4日間、中国・北京市で開催された。

展示会社として、日本からは日立建機、コベルコ、コマ

ツ、CAT等の大手油圧ショベルメーカーやタダノ等のクレーンメーカーが出展しており、他にも海外から油圧ショベル、クレーン、機器部品、修理メーカー等多くの企業の展示が見受けられた（写真1～写真5）。

会場は我々のような海外からの視察団や現地の人達も非常に多く、活気に満ち溢れていた。

屋外には油圧ショベル、ホイールローダ、クレーン、ダンプトラック、フィニッシャのほか、小型発電機等のエンジン式機械が、また、屋内には主に機械部品が展示されていた。

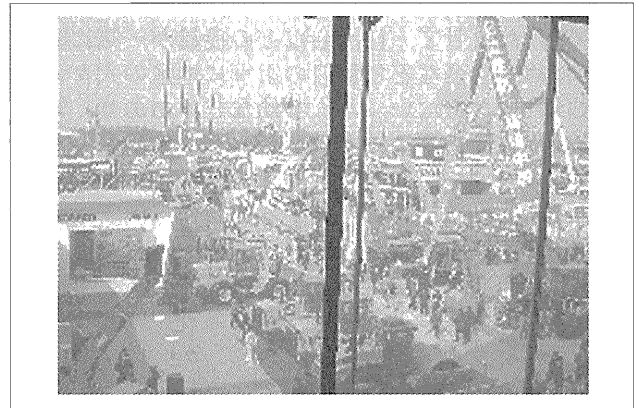


写真-3 会場の全体



写真-1 足回り イミテーションメーカー（中国）



写真-4 足回り イミテーションパーツメーカー（中国）

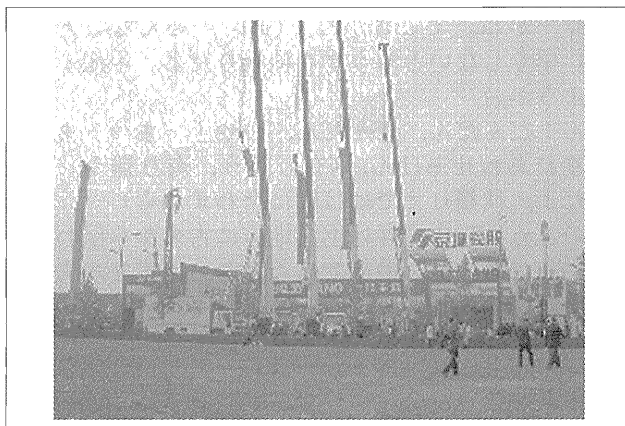


写真-2 タダノ（日本）

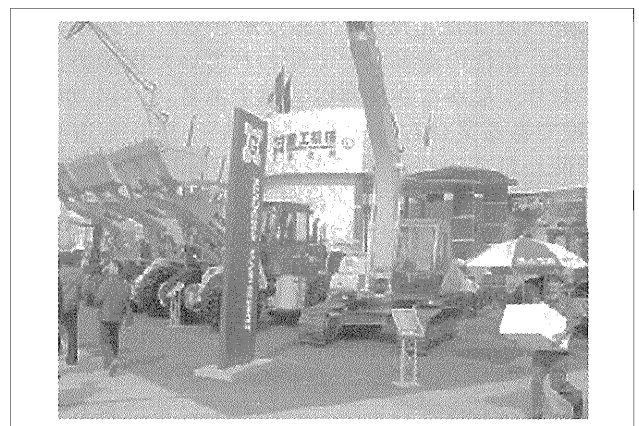
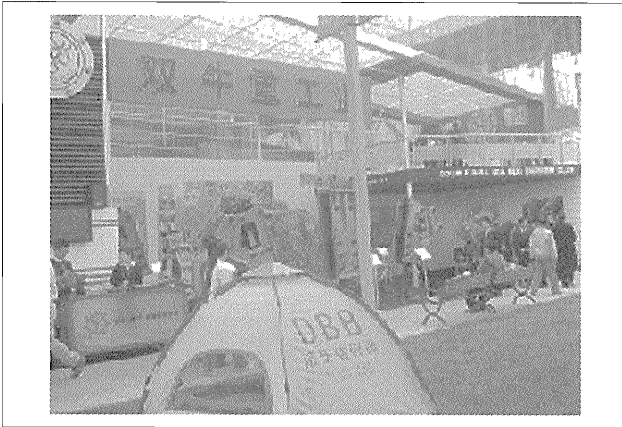
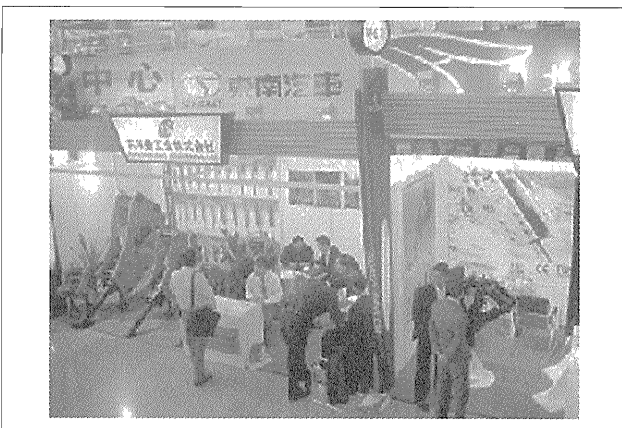


写真-5 夏工集团（中国）

油圧ショベルは、日本の大手メーカーはもとより中国企業の出展も多く見受けられた。それに対し、日本企業のアタッチメント関連を展示している企業は少なく、話によると中国国内にこのような企業が多く存在するとのことである。展示会では韓国企業の出展も多く見受けられた（写真—6～写真—7）。



写真—6 双牛重工（中国）



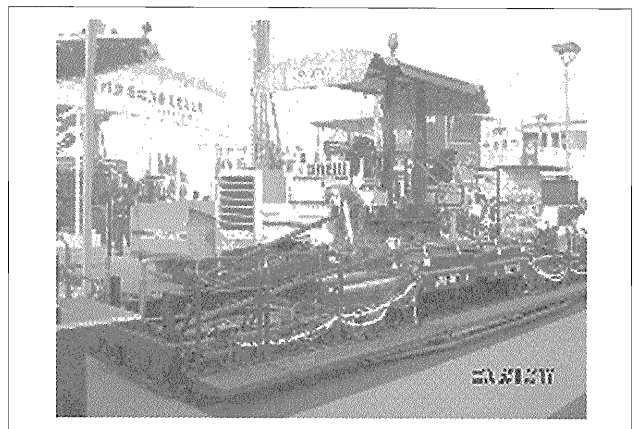
写真—7 東南汽車（韓国）

ホイールローダは、日本の企業の展示はほとんどなく、中国及び海外企業の展示が主であった。クレーンは、トラッククレーンが主に展示されていたが、実際に街中を移動した際に見た現場では、トンボクレーンが主体で、トラッククレーンの需要はこれからかと思われた。フィニッシャは、日本と違い道路幅が広いいためか、大型の物が主に展示されており、日本との特色の違いを感じさせられた（写真—8～写真—9）。

会場までの道のりで、建築現場、土木現場等を多く見たが、数十年前の日本のような現場状況に見えた。安全対策のヘルメット、安全帯、安全靴の着用は徹底されておらず、機械よりも人間が多いと感じた。日本では、なるべく人手をかけず、機械が使用出来る場所は機械をメインとしているが、中国では、人件費の安さからか、人手で対応でき



写真—8 广西柳工機械（中国）



写真—9 大型フィニッシャ

るところは人手で対応するといった感じのように見受けられた。

しかし、これから更なる建設ラッシュを迎える中国では、機械の需要が非常に多くなると予測される。今回の展示会の熱気からも、その様子が窺えた。

展示機械以外の設備関連については、展示会場の広大な広さに対して、仮設トイレはまったく見受けられなかった。また、休憩場所や飲食場所なども少なく、日本の展示会場との違いを感じた。レンタル業に携わる者として、こういった仮設の機械、設備が現地あまり出回っていないのだと感じた。国民性の違いもあり、現地でのレンタル業が成り立つかは不明であるが、非常に興味深い点である。

杭州神鋼建設機械有限公司視察

今回は社団法人日本建設機械化協会の主催により、杭州神鋼建設機械有限公司の新工場見学をさせて頂いた。

工場は、日本でいう工業団地内に位置し、ほかにも多くの日本企業が海外拠点として進出している。

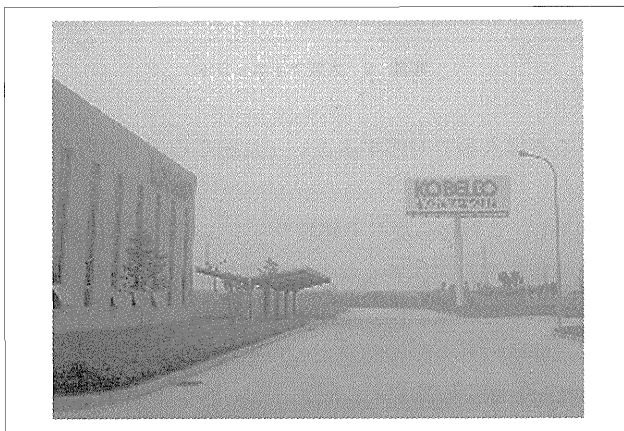
杭州神鋼建設機械有限公司の株主は、コベルコ建機 51%、豊田通商 27%、成都嘉力興投資有限公司 22% にて構

表一 杭州神鋼概要

社名	杭州神鋼建設機械有限公司
	[英文名] Hangzhou Kobelco Construction Machinery Co., Ltd.
所在地	浙江省杭州市 杭州経済技術開発区
資本金	28.7百万ドル(約30億円)
株主構成	コベルコ建機 51%, 豊田通商 27%, 成都嘉力興投資有限公司 22%
設立時期	2003年12月30日(2005年3月より稼働開始)
董事長	山下和則(コベルコ建機理事, 成都神鋼の副董事長兼総経理) [総経理]: 木下章(コベルコ建機, 杭州神鋼の董事兼総経理)
事業内容	建設機械(重機ショベル)の製造
生産能力	年産2,000台
敷地面積	30万m ²
従業員数	205名(2005年10月時点)

成され、建設機械の製造を主とした会社である。年間の生産能力は2,000台で、中国国内のみならず、国外(日本、米国)への輸出も行っていく計画とのことである。

工場内は、まだ新しいこともあり、生産台数を増やせるよう追加できるスペースが確保されていた。今後、輸出も考慮にいて売上げ向上を図るという意欲を強く感じさせられた(写真一10~写真一11)。



写真一10 杭州神鋼工場入口



写真一11 輸出用足回り梱包状況

また、実際作業されている方は、現地中国の人が多いとの事であるが、生産現場を見た感じでは日本の工場と同様である。しかし、内情を伺うと、溶接技術等は日本に比べて低いという。その対策として、外部から優秀な技術者を募るが、一時的に入社はしても、他企業で給料面などのより良い条件が提示されると、すぐに転職してしまい定着しないといった状況であるとの事であった(写真一12~写真一13)。



写真一12 溶接作業



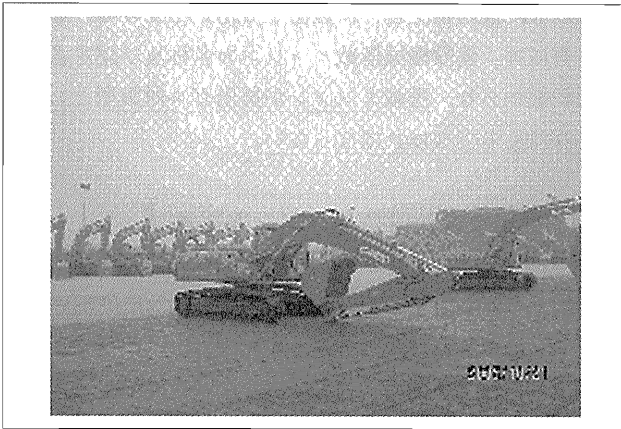
写真一13 組立てライン

従業員の平均月収は1,000元くらい(日本円で約15,000円)と非常に安く驚かされる。

多くの日本企業が中国へ工場を構え、生産したものを日本国内で販売しているが、この人件費であれば納得できる。しかし、技術面ではやはり日本国内の方が信頼性が高いと思うのは私が日本人であるからであろうか?

とは言え、日本企業でも徐々に若者への継承が行われなくなり、技術レベルが落ちてきているとの意見を新聞等でよく目にする。今後の中国では、マーケット拡大を見据え、優秀な技術者が一部の企業に偏ることのない、幅広い人材の育成が不可欠と思われる。

工場内は、多くの売約済み機械が保管されていた(写真一14)。



写真—14 売約済みの機械保管状況

現在、中国では北京オリンピックや上海万博等の大型プロジェクトが目白押しで、建設ラッシュにさらに拍車をかけられると思われる。建設機械の需要は今後益々拡大されると感じられた。

(わたなべ ひろのぶ：株式会社レンタルのニッケン本社営業部
土木環境チーム)

現場技術者のための

建設機械整備用工具ハンドブック

- ・ 建設機械整備用工具約 180 点の用語解説と約 70 点の使い方を収録。
- ・ 建設機械の整備に携わる初心者から熟練者まで幅広い方々の参考書として好適。

■ A 5 判 120 頁

■ 定 価：会 員 1,050 円 (消費税込), 送料 420 円

非会員 1,260 円 (消費税込), 送料 420 円

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館) Tel. 03(3433)1501 Fax. 03(3432)0289